

ISSN: 2189-793X

Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University

とうしよけんぶんしつ
島嶼研分室だより

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 16

2023年3月



企画紹介

JSPS 研究拠点形成事業での鹿児島・奄美大島野外実習を開催

p2

研究紹介

奄美大島の干潟でよく見られるシオマネキ類

奄美大島における観光利用の適正化と利用者間の認識の違い

河合 溪

p3

竹下文雄

宋 多情

分室活動報告

p4-7

学生島体験！

苦難と充実の奄美

p8

大重直明

JSPS 研究拠点形成事業での鹿児島・奄美大島野外実習を開催

かわい けい
河合 溪

(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

国際島嶼教育研究センター（島嶼研）は、令和3年より3年間を対象にJSPS研究拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）に採択されました。この事業は、熱帯・亜熱帯アジアを対象に「島における人と自然の『共生』」を目的に、本学農学部、水産学部、法文学部の教員と学生が参加し、本学と学術交流協定を結んでいる大学（フィリピン・フィリピン大学ビサヤ校、マレーシア・サバ大学、インドネシア・パティムラ大学）とネットワークを形成し、教育研究拠点形成、若手研究者育成、共同研究を推進するものです。令和3年はコロナウイルス感染症の影響がまだ強かったため、対面式の交流は行わず遠隔でのセミナーが中心の活動を行いました。令和4年はコロナウイルス感染症の対策も進んできたため、お互いの大学を訪問するなど対面式の交流を進めることができるようになりました。

本事業の一環として令和4年11月10日・15日に、参加4大学の大学院生・若手研究者、そして教員の計21名が参加し、奄美市の後援のもと、鹿児島市と奄美大島において野外実習プログラムを開催しました。

この野外実習プログラムは、生物と社会・文化の多様性の高さが注目されている鹿児島、特に世界自然遺産登録地である奄美大島において施設見学、関連する講義と野外実習の受講、そしてアジアにおける島嶼研究ネットワーク形成を目的にしたものです。

鹿児島では4大学のコーディネーターより島嶼研セミナー室にて各大学の生物と社会・文化の多様性についての講義を受けました。また、鹿児島島の社会・文化を学ぶために錦江湾での養殖施設、桜島、黎明館などを訪問しました。一方、奄美大

島では鈴木英治教授（島嶼研）と鶴川信准教授（農学部）から奄美の植物の多様性、生物相、その調査方法などに関する講義を受けました。翌日は実際に山に入り、鈴木教授による植物観察会と鶴川准教授による植物を対象にした長期モニタリングの方法についての実習を受けました。また、奄美の文化を知るために大島紬村と奄美パークを訪問し、大島紬の制作過程や田中一村の絵画の鑑賞、そしてビデオ・展示により文化の多様性について学びました。昼食では奄美の伝統的な食材を使った料理を味わい、島での生活の一端を理解しました。最後に、参加学生は自ら行っている研究の紹介を行い、学際的な視点での島嶼研究の議論を深めました。この研究紹介には、地元の大島高校生も参加し、高校生からは多くの質問があり交流を深めました。

参加者教員・学生からは、鹿児島県の島嶼、特に奄美の文化と生物の多様性を十分でき、自分たちの研究へのヒントが多くあり充実した実習であったと多くの意見がありました。今後の共同研究の打ち合わせも行い、本プロジェクトの一層の活性化と発展が話し合わせ、来年度も活発な活動を進める予定です。



奄美大島・あやまる岬にて

薩南諸島における研究の紹介

奄美大島の干潟でよく見られるシオマネキ類

たけしたふみ お
竹下文雄（北九州市立自然史・歴史博物館・令和4年度客員研究員）

シオマネキ類は干潟に生息するカニの仲間です。オスでは片方のハサミが非常に大きくなり、そのハサミを使って他のオスと争ったり、メスに求愛したりします。

奄美大島の干潟でよく見られるシオマネキ類には、まずオキナワハクセンシオマネキが挙げられます。やや黄味がかった白く長いハサミを持ち、背甲は黒いまだら模様を呈します。彼らは自身の巣穴を守りながら摂餌や求愛行動に勤めます。次によく見られる種はヒメシオマネキです。オキナワハクセンシオマネキよりも少し大きく、オスのオレンジ色のハサミは平べったく少し曲がった形をしています。

この2種は形だけでなく生態も大きく異なります。特に配偶行動に注目してみると、「地下交尾」と呼ばれる交尾の仕方に明確な違いが見られます。オキナワハクセンシオマネキでは、オスがハサミを振って求愛し、メスを自身の巣穴に誘導して地下交尾を行います（写真）、ヒメシオマネキではオスがおしくらまんじゅうのようにメスを巣穴に押し込み、地下交尾を行います。

上記2種以外にも、奄美大島にはシモフリシオマネキ、ベニシオマネキ、ルリマダラシオマネキ、リュウキュウシオマネキ、ヤエヤマシオマネキなど複数の種が生息しているようです。まだまだ生態が分かっていない種も多く、今後の研究が待たれます。



ハサミを振ってメスに求愛するオキナワハクセンシオマネキのオス

奄美大島における観光利用の適正化と利用者間の認識の違い

そん たじょん
宋多情（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

アマミノクロウサギなど夜間に野生動物を観察するナイトツアーが盛んに行われている奄美市道三太郎線では、2021年10月から夜間利用ルールが試行されている。利用者の増加とともに、野生動物のロードキルや密猟の発生、混雑時の野生動物遭遇率低下などが問題として挙げられた。三太郎線の利用適正化に向けて、Web事前予約による台数制限（1時間4台）、世界自然遺産登録地を通過する支線の通行自粛、野生動物観察ルールの遵守（時速10km以下で走行等）などが利用ルールとして定められている。私と奄美野生動物保護センターの鈴木真理子氏は、行政主導の利用規制がナイトツアーガイドと地元住民にどのように受け入れられるのかを明らかにするために、聞き取り調査を行っている。利用ルール策定のための2回の実証実験後に行った調査では、両者の利用内容と考え方の違いが明らかになった。2022年9月と年末年始に

は、利用ルール変更のための実証実験が行われた。現在、ゴールデンウィークなどの利用が集中する時期に、地元住民の利用機会を確保する「地元枠の設定」と、混雑や枠の逼迫を緩和する「1枠2台利用」が検討されている。今後も継続して聞き取り調査を行い、利用者間の認識の違いと課題を明らかにし、実効性のある利用ルールの運用に協力したい。



ナイトツアー中に観察したアマミノクロウサギ

奄美分室の活動報告(2022年9月～2023年2月)

<シンポジウム・講演会>

◎2022年度鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会(全5回)

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター・ミッション実現戦略分

「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」

共催：奄美群島広域事務組合

後援：与論町、徳之島町、龍郷町、喜界町、知名町

➤ 第19回鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会

日時：2022年11月26日(土) 与論町役場1階多目的ホール・対面式開催

講演：「奄美で在来カンキツについて考える」山本雅史(農学部)

「島嶼の豊かな自然環境をドローンで見てみよう～スマート農業への利用～」平 瑞樹(農学部)

➤ 第20回鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会

日時：2022年12月24日(土) 徳之島町井之川みらい創りラボ井之川・対面式開催

講演：「島のさとうきびと砂糖の話」坂井教郎(農学部)

「アミノクロウサギによる農作物被害をどう防ぐ？」高山耕二(農学部)

➤ 第21回鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会

日時：2023年1月21日(土) 龍郷町役場・対面式開催

講演：「魚は島の宝：生産者と飲食店・宿泊施設の連携を考える」鳥居享司(水産学部)

➤ 第22回鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会

日時：2023年2月11日(土) 喜界町役場多目的室・対面式開催

講演：「奄美群島の戦争遺跡を訪ねる」石田智子(法文学部)

「地域資源を活かした喜界島の景観づくりを考える」平 瑞樹(農学部)

➤ 第23回鹿児島大学奄美群島島めぐり講演会

日時：2023年2月18日(土) 知名町中央公民館・対面式開催

講演：「海藻の上に住む小さな動物たち」小玉将史(水産学部)

「ちょっと怖いが実は面白い寄生虫の話：奄美群島の寄生虫たち」上野大輔(理学部)



第20回島めぐり講演会の様子



第21回島めぐり講演会の様子

◎鹿児島大学シンポジウム「奄美群島における『生物文化多様性』と『地方創生』」

日時：2023年2月19日（日）奄美市市民交流センター大多目的室・オンライン開催

主催：ミッション実現戦略分プロジェクト「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」（国際島嶼教育研究センター・大学院理工学研究科地域コトづくりセンター）

後援：奄美市

プログラム：

岩井 久（理事）：	開会挨拶
高宮広土（島嶼研）：	趣旨説明
川西基博（教育学部）：	奄美大島の森林をモニタリングから理解する
久米 元（水産学部）：	リュウキュウアユの生活史に関する研究
安藤匡子（共同獣医学部）：	奄美大島のマダニとダニ媒介性感染症
鳥居享司（水産学部）：	島内連携の確立による漁業経営の振興
山城 徹（理工学研究科）：	地域ビッグデータを活用した、水産・海洋産業のスマート化と島嶼部での再エネ高効率利用に関する研究
加古真一郎（理工学研究科）：	AIとリモートセンシングによる海洋プラスチック汚染研究
江幡恵吾（水産学部）：	漁海況予測に基づくスマート水産業の実現に向けて－漁業者と連携した共同調査の取り組み－
市川英孝（法文学部）：	離島における再エネ活用の地域利用について

<セミナー・観察会等>

◎第36回奄美分室で語りましょう「レプトスピラ症：愛犬とご自身を守るために知っておきたいこと」

日時：2023年1月26日（木）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：小泉信夫（国立感染研究所、鹿児島大学島嶼研令和4年度客員研究員）

国立感染研究所・島嶼研令和4年度客員研究員の小泉信夫博士により、レプトスピラ症についての説明があり、愛犬への影響及び、奄美群島での発生状況についての説明があった。



小泉信夫博士



奄美分室での様子

◎奄美群島の植物教室

与論島

日時：2023年11月27日（日）
 主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
 共催：奄美広域事務組合
 後援：与論町
 講師：鈴木英治（鹿児島大学島嶼研）

徳之島

日時：2023年12月25日（日）
 主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
 共催：奄美広域事務組合
 後援：徳之島町
 講師：鈴木英治（鹿児島大学島嶼研）

喜界島

日時：2023年2月12日（日）
 主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
 共催：奄美広域事務組合
 後援：喜界町
 講師：鈴木英治（鹿児島大学島嶼研）

奄美群島の3島において植物教室が開催された。植物好きの方が集まり、多くの植物を観察することができた。



与論町植物教室の様子



徳之島町植物教室の様子

◎奄美分

●2022/8/29-9/12

鹿児島大学 課題解決型インターンシップ

主催：日本航空

室で協力したイベント



インターンシップの様子

< 奄美分室来訪者数 >

のべ261名（2022年9月1日～2022年2月28日）

< 奄美分室関連報道記事（令和4年3月～令和5年2月） >

- 2022/4/5 奄美新聞 P5 「離島住民の健康を守る」18日、鹿大島嶼研、研究会
- 2022/4/20 奄美新聞 P9 大学と離島医療の関わり講演「生活習慣の見直し必要」
- 2022/4/20 南海日日新聞 P9 離島地域の健康問題語る 鹿大病院、嶽崎氏が講演
- 2022/5/12 奄美新聞 P5 植物の多様性講演 案内
- 2022/5/14 南日本新聞 P12 小浜貝塚初の本格調査 稲作伝来の痕跡探る
- 2022/5/23 南日本新聞 P19 学ぶ 鹿児島大学国際島嶼研究センター第219回研究会 案内
- 2022/5/26 奄美新聞 P8 奄美を分かりやすく解説 ブックレットシリーズ 4冊刊行
- 2022/5/27 南海日日新聞 P7 「研究の成果を還元」住民向け4冊子出版
- 2022/6/1 奄美新聞 P8 植物の多様性講演 新種管理「情報の一元化必要」
- 2022/6/14 南日本新聞 P13 琉球列島のゴカイ一冊に 生物多様性 魅力知って
- 2022/6/16 南海日日新聞 P8 ガイド技術の向上へ 専門家講師に植物学が
- 2022/6/23 南日本新聞 P28 鹿児島大学国際島嶼研究センター第220回研究会 案内
- 2022/7/13 南日本新聞 P24 学ぶ 鹿児島大学国際島嶼研究センター第221回研究会
- 2022/9/3 奄美新聞 P5 「島の研究深めて」客員研究員募集、30日まで
- 2022/9/4 南海日日新聞 P7 令和5年度 客員研究員を募集
- 2022/10/5 南海日日新聞 P7 鹿児島大学で研究大会 日本ケルト学会 奄美の人々をオンライン招待
- 2022/10/11 奄美新聞 P8 「消えゆく島大根」考える 鹿大島嶼研研究会
- 2022/10/13 南海日日新聞 P7 奄美大島の自然を守ろう 外来植物調査で講習会
- 2022/10/23 南海日日新聞 P1 「境界上の島」テーマに 日本島嶼学会が開幕
- 2022/10/24 奄美新聞 P1 「沖永良部島の成り立ち」考察 人類、地理、火山の専門家が講演
- 2022/10/24 奄美新聞 P8 住民からのデータ集計し、来年報告会へ 外来植物モニタリング講習
- 2022/10/24 南海日日新聞 P9 外来植物の調査方法学ぶ 住民参加型の体制構築へ
- 2022/10/31 奄美新聞 P9 「伝統野菜の継承考える」鹿大島嶼研研究会
- 2022/11/21 南海日日新聞 P1 「外来植物の影響を懸念」遺産地区外のアカギも対応協議を
- 2022/12/03 奄美新聞 P9 「東大気海洋研究所シンポ」
- 2022/12/03 南海日日新聞 P9 「地域連携、学びの発展に期待」
- 2023/1/1 奄美新聞 P4 「奄美と文化人類学① 桑原季雄」 「奄美研究と鹿児島大学」
- 2023/1/4 南海日日新聞 P3 「現状と課題、そして『子どもたち』へ」 「アマミノコウサギ」
- 2023/1/17 奄美新聞 P5 「魚は島の宝」講演会 鹿大島嶼研主催 21日、りゆうかく館
- 2023/1/19 南海日日新聞 P7 水産物利用の方向性 21日、鹿大「島めぐり講演会」
- 2023/1/24 奄美新聞 P8 地域内調達率の重要性説く 龍郷町で「魚は島の宝」講演会 鹿大
- 2023/2/2 奄美新聞 P5 自然と文化地方創生へ 2月19日、鹿大シンポ
- 2023/2/5 南海日日新聞 P8 住民参加の調査体制構築へ 地域の目で外来植物の侵入監視
- 2023/2/6 南海日日新聞 P7 喜界町と知名町で講演 鹿大「島めぐり講演会」
- 2023/2/10 南海日日新聞 P7 奄美の多様性と創生 市民交流センター 19日鹿大シンポジウム
- 2023/2/13 奄美新聞 P1 下原洞穴遺跡シンポ「空白の1万年前の痕跡」磨製石鏃製作跡は県内初 天城町
- 2023/2/14 南海日日新聞 P1 空白の1万年、埋める痕跡・下原洞穴遺跡、研究に期待
- 2023/2/15 奄美新聞 P9 「外来植物」侵入状況報告 鹿大・環境省ワークショップ
- 2023/2/20 南海日日新聞 P1 「環境と経済、融合モデル構築へ」地域課題の解決策探る 奄美市で鹿大シンポ

～学生島体験！ vol.16～

「苦難と充実の奄美」

おおしげなおあき
大重 直明 (鹿児島大学農学部4年)

卒業論文のテーマに奄美大島のハト類を選んだ私は、調査のため8月と11月に現地の山に入った。8月、見たこともないほど濃い青をした海を眺めながら「観光をしつつ大自然の中を歩けるなんてラッキー」そう思っていた私は、山の傾斜と暑さ、道のりの長さに絶望した。これがあと3日続くと思うと逃げだしたくなった。初日は夕方からの活動で、山を出た帰りに夕食と翌朝用のパンを買った。ちょうど花火大会があったようで、泥だらけの私の前を通り過ぎていく浴衣姿のカップルを何とも言えない気持ちで見送った。あまりのハードさから夜は泥のように眠った。

2日目、このままでは体が持たないと思った私は引率の藤田准教授に山の歩き方を教えていただいた。斜面に足の裏をくっつけるようにすると良いそうで、実際にやってみると初日よりも体力の消費を抑えることができた。森を見渡す余裕も生まれ、県本土では見られない壮大な原生林に感動を覚えた。夜は焼肉を御馳走していただいた。1日動いた体に染み渡る肉とビールの味を忘れることはないだろう。3日目も体力に余裕を持って活動を終え、「明日が最終日か」と少し寂しい気持ちになりながら眠りについた。

最終日、今回の日程で最もハードな山登り。午前中は比較的涼しかったが、連日の疲労から熱中症気味になってしまった。足は自分のものとは思えないほどふらつき、力が入らない。「自分は何をしに山に入っているのだろう」と、思考回路もうまく動いていないようだった。国際島嶼教育研究センターの河合教授に荷物を持っていただき、何度も休憩をとりながらようやく山を出た。帰りの飛行機の時間が迫っていたため、宿舎を急いで片付け、空港へ向かった。11月の調査に向け、体力を付けなければならぬ。そう強く感じた夏だった。

11月、夏とは違い、フェリーで奄美へ向かった。錦江湾を抜けると船内は徐々に揺れはじめ、船酔いからまともに寝ることができなかった。そのまま山に入ることになったため体調が心配だったが、川西准教授が様々な植物を紹介しながら歩いてくださり、リラックスして活動できた。今回は気温が高くなかったので体力的なきつきはほぼ無かった。夏には行けなかった鶏飯や島豆腐のお店にも入ることができ、島料理の美味しさを感じた。時間にも余裕があり、最終日は奄美パークで田中一村の作品を鑑賞した。植物が絵の中で生きているような独特な描写と色使いに時間も忘れて見入っていた。幼い頃から絵画に興味があった私にとって、とても充実したひとときだった。空港に向かう前に浜辺を歩いた。曇りだったが、海はやはり濃い青で美しかった。「きつかったけど、楽しかった」「もう少しここにいたい」様々な思いが溢れてきた。奄美大島には私の知らない魅力がまだまだたくさん詰まっている。次は思い切り観光を楽しんで、この島を更に好きになりたい。



自動録音機

編集後記

奄美での冬をはじめて過ごしました。意外に寒いと聞いていましたが、やはり暖かく過ごすことができました。春の奄美が楽しみです。

河合 溪

島嶼研分室だより No. 16

令和5年3月17日発行

鹿児島大学

国際島嶼教育研究センター奄美分室

〒894-0026

鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島
紬会館6階

TEL: 0997-69-4852 FAX: 0997-69-4853

E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp

<http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/>

表紙写真:

旧正月のお祝い: 奄美伝統作物研究会にて

(撮影: 2023年1月、河合 溪)

ISSN: 2189-793X